中国第二革命

教授)は、ここに訳出した「フォーリ大学高等国際問題大学院〈SA-S〉大学高等国際問題大学院〈SA-S〉ット氏(現在、ジョンズ・ホブキンズ中国研究者であるA・ドーク・バーネ中国研究者であるA・ドーク・バーネ モ沢東死後十年が過ぎだ。この間、中国は、歴史的な非毛沢東化をすすめ、即かれだ中国」から「開かれだ中国」と大きく転換した。そのような中国は、歴史的な非毛沢東化をすすめ、中国は、歴史的な非毛沢東化をすすめ、

の最新論文で、この問題に正面から取り組み、当面の中国が抱える様々な矛盾や困難にもかかわらず、中国の将来盾や困難にもかかわらず、中国の将来盾や困難にもかかわらず、中国の将来でに二十一世紀への一つの可能性——"市場社会主義、の形成——を見出している。とくに、改革派と保守派の対立の問題や中国における軍の文民統制化の問題や中国における軍の文民統制化の問題やとしかもきわめて妥当な指摘であり、多くの統者にとつて有益であろう。 あるが、氏は、いるアメリカト教授は、私

一九二一年に上海に生まれ、長い中国 ・ では、 ・

日中出版、一九七八年)、「現代中国日中出版、一九七八年)、「現代中国日中出版、一九八六年)など、邦訳されて育社、一九八六年)など、邦訳されているものもうとも良質な中国研究の著作のなかに、中国の将来について、アメリカのに、中国の将来について、アメリカのに見出している一人である。
「見出している一人である。
「現代中国」に見出している一人である。
「現代中国」に見出している一人である。

度 0 失脚か らよみが え 2 た鄧 小平

の中で、 線に乗り出した。 孤立主義から国際的な相互依存へと急速に推移 ラグマテ ある。こうした潮流 、きな新段階を示すものである。 毛沢東の たな革 指令経済から 中国は、 ィズムへ、 ∃した。毛沢東時代末期からの一八○度の方向転換持続した変革」を意味すると主張している改革路 命 死後十年が経 」と呼び、 イデオロギー 「市場社会主義」へ、 極端な全体主義から開放的な権 は、 近代化へ 趙紫陽首相が中国経済 2 この 的な教条主義から折衷的なプ の 中国の長 間に中国 そして、 VI 歩みの中で、 してきたの 自給自足 造の「広 威主義 で 0 から

H

党 清王朝 て十 第二次大戦後の国共内戦期に、 と共産主義革命に直面 m の追求であ 心課題は、 十九世紀半ば以米中国で展開されてきた歴史 中国は軍閥に割拠されて しまった。一九二〇年代に国民 に繰り返し臨みながら、 または民族派の政権は、 年間は実際に 0 が崩壊は、 現代世界における「富と権力」と、 った。 中国民族は、 共和国の成立をもたらしたものの、 進展をみ Ļ 民族主義者たちもまた挫折した。 失敗を重ねてきた。 せた。だが、 国家の再統合に乗り出し、 大きな期待とともに新 中国は再び分裂 それ から日本の侵略 九 のド 尊厳ある地位 た ラマ の たな局 まもな 一年の で そし 0 中

上最も野心的な工業化の計画に着手し、 京の権力をか 制を打ち立て、 の革命的経験を引き継いで、 導者たちは、 十世紀にお 以前のどの政権よりも効果的に国家の資源を動員し、 の大国としての地位を主張したのである。 2 四九 年の いては初めて国家を再統一した。 政権は つてないほど広範な民衆レ モスクワをモデルとしながらも、 中央集権的な計画経済を組織した。 中国共産党 有効な中央政府を (中共) 数年のうちに強力な全体主義体 の勝利 そして精力的に、 ちはや ペルにまで拡張し、 は 中 国の新し 自己の三十年 く樹立し、 大きな分水 彼らは北 中国史 い 中 指

代後半の文化大革命は、この国の政治システム T に入 年代半ばの短期間、 革命は再び中国を解体の危機にさらしたのである。 部は分裂し、 共産主義者たちもまた、 代には目覚しいものであ 多くの点で毛体制下における成果は、 は、 継続革命」を要求した。 2 社会のヴィジョンを求め、 たかに見えた。 破滅的な経済不況をもたらした。 い 経済は増大する諸問題に直面し、 七〇年代初めに 中国は、 しかし同年代末に毛沢東 基本的な点で失敗した。 った。 安定と持続的成長の革命後社会 一九五〇年代後半の だが毛沢東最後の十年間 再び急進的政策を迫り、そし おける回復も、 とり そして一九六〇年 わけ そして文化大 は、 の破滅的な弱 せ 北京の指導 い 一九五〇年 「大躍進」 一九五〇 独自 い 15 部分 0

国由民主

一九八六年工月号

られまのに過ぎなかった。 のなものに過ぎなかった。

まだはっきりしなかった。 た。そして、九月九日に毛沢東が死去し、一ヵ月もたたぬう統的な見方によれば、指導部が『天命』を失った証拠であっ りを印したが、 ちに、彼の側近であった急進的な毛王朝の衛兵たちが逮捕さ 統的な見方によれば、指導部が「天命」を失った証拠であっ最も破壊的な地震の一つに見舞われたが、これは中国人の伝 継者と目されて浮上した。一九七六年半ばに中国は、 贬目は文革初期)。 死去し、周の第一副首相・鄧小平は二度目の失脚をした(一 毛沢東時代最後のクライマックスの年となった一九七六年 華国鋒が党主席となった。 相次ぐ悲劇と災難の年であった。実際その雰囲気は、 な王朝の末期のようであった。同年初頭に周恩来首相が 次の時代の中国を誰がどの方向へ導く そして事実上無名の華国鋒が毛沢東の後 毛の死は、 一つの時代の終わ 歷史上 か 伝

する多くの中共指導者は、こうしたことに満足しなかった。諸政策を拒否し、そして新たな改革政策を導入しようと決意れのものであった。文革を清算し、毛末期の時代の急進的な改革を採用したが、それらは抜本的というよりは、一時逃な改革を採用したが、それらは抜本的というよりは、一時逃な改革を採用したが、それらは抜本的というよりは、一時逃な改革を採用したが、それらは抜本的というよりは、一時逃れのものであった。文革を清算し、毛末期の時代の急進的な数率を採用したが、それらは抜本的というよりは、一時逃れるがである。 と 華国鋒の指導権は、短い中継ぎのものでしかなかった。 な 華国鋒の指導権は、短い中継ぎのものでしかなかった。 な

一九七八年初頭 一九七八年初頭 一九七八年初頭 に 薬国鋒は、中 国の「四つの現 に、野心的な十 に、野心的な十 に、が性急 に公式化された に公式化された た 経済躍進」

お「経済躍進」 な「経済躍進」 を唱え、課題を 解決するどころ か多くの問題を こうして年末ま でに中国は、そ

に鄧小平が実権を握ったのである。鄧小平は一九五○年代半錄は、名目上その短い期間の指導権を保っていたが、実質的議で、鄧小平は根本的な政策転換を要求した。この時、華国の転換点は、一九七八年末に訪れた。中央委員会の歴史的会中国の刷新を目指し、政治・経済体制を真に改革するための計画を放棄してしまったのである。

か、というところにあったのである。 規模といかなる速度で中国の政治・経済体制を変 革 す べ き対意見も、その焦点は改革が必要か否かではなく、いかなる鄧の改革の一般的方針を支持していた。引き続き存在する反今日でも存在するが、しかし一九八二年には、圧倒的多数が今日でも存在するが、しかし一九八二年には、圧倒的多数がの特定の政策には最高指導部内にも批判が残り、それは

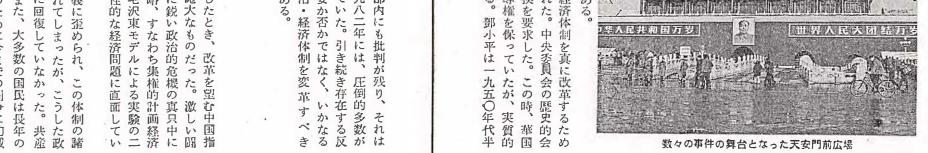
中国改造への決意

たのである。 大のである。 でのである。 でのである。 でのである。 でのである。 でのである。 でのである。 での異なった発展戦略、すなわち集権的計画経済あった。二つの異なった発展戦略、すなわち集権的計画経済あった。二つの異なった発展戦略、すなわち集権的計画経済がの十年を経て、中国はいまだに鋭い政治的危機の真只中に導出を形成終的に権力を獲得したとき、改革を望む中国指

ギーに対しても、信頼を失っていた。ほとんどの中国人は何闘争に疲れ、停滞した生活水準のために今までの闘争に幻滅党の幹部たちは腐敗していた。また、大多数の国民は長年の治的な弱体化から中国はいまだに回復していなかった。共産機関は麻痺し、社会秩序は覆されてしまったが、こうした政機関は麻痺し、指導部は派閥主義に歪められ、この体制の諸文革期には、指導部は派閥主義に歪められ、この体制の諸

獲るなら黒い猫でも白い猫でもかまわぬと発言したとして非 グマティズムは鄧小平の特徴であり主要な任務であった。 平は一九七七年に再度返り咲いた。 難したのであった。毛沢東に二度失脚させられながら、 七四~七五年)の中で主要な役割を担ってきた。実際、プラ する三つの試み(一九五六~五七年、六一~六二年、そして 務委員の中で生きのび得た二人のメンバーの一人でもあ 雲とともに、 (もう一人は陳雲である)。 以降文革まで党総書記を務めたが、 中国の急進派はこれを批判し、彼がかつて、ねずみを 中国をよりプラグマティックな方向へ導こうと 鄧は劉少奇、周恩来、 文革前の中央政治局常 それに陳 った 文

改革を支持する連合を拡大することによって成し遂げた。こ 化すること、 ていた。同年末に彼は、 理を求める (実事求是)」といったスローガンがこれを象徴し 7 は完全な支配権を獲得していた。 うして一九八二年九月の中国共産党十二全大会には、 したが、それを彼は、極めて平静に、平和的方法で、 に説得した。その後も彼の権力を完全に固めるには数年を要 ティズムを採用しようという大キャンペーンを 提 唱 を指導的地位から追い出し、 「実践こそ真理の唯一の基準」だとか「事実に基づき真 七八年に鄧小平は、イデオロギー そして世界に対し「開放」政策をとることを党 階級闘争の代わりに経済発展を最優 他の者は中立化し、 的教義を棄てプラグ 基本的 鄧小平 徐々に した



こうした新しい方針に従って中国の改革派は、

驚くほど折

かつ経験主義的に、功利的な新政策を導入していった。

主要な資本主義国、

東欧諸国そして東アジアの近隣

信頼の根本的危機に直面したのである。 よりも安定とより良い生活を望んでいた。 中国は明らかに、

基盤の形成、 移り気ですらある)全面的な経済成長や、最初の強固な産業 た。毛沢東時代の経済的な成果には、かなり速い(あまりに 解決を迫られていた。こうした問題は、一九五○年代に始ま は、ことによるとそれほど明確なものでなかったが、切実に た趨勢の累積的な結果であり、時を経て一層深刻化してい かわらず、 小平とその支持者たちが直面していた慢性的な経済問題 生活水準は極めて低いままであり、その非効率 それに比較的公平な生産品の分配等があるにも 的な経済システムは、



きく遅れてしまったこ 発展は東アジアのほと 成長は維持できないと 目に明らかであった。 とを認識していた。 信じていた。彼らはま これら指導者の多く 中国指導者の大多数の んどの近隣諸国から大 もってしても、 達成された成長を 遠大な改革なしに 中国の

> 術は先進諸国からはるかに引き離されてしまっていた。 たるものであった。長年孤立していたために、中国の科学技 なものだった。 かなりの失業者が存在しており、不完全雇用は風土病のよう あらゆる消費財は品不足で、その大半の品質が劣っていた。 いたが、国内需要を満たすことはままならなかった。 生産性要因は実際に衰退していた。農産物の生産は増加して た。中国の多くの資本のストックは老朽化し、(労資兼顧の) 巨大な投資を通じ、生活水準の実質的向上を除外して達成さ た。それは桁外れに非効率的で浪費的だった。過去の成長は システムは、 たのであった。経済は、不均衡と隘路と不足に 病ん でい 毛沢東以後の中国の指導者たちによって引き継がれ 計画過剰であまりに 集権的かつ官僚的であっ 中国の教育・研究機関は文革の結果さんたん 事実上 た経済

大な政治・経済の改革に取り組むことを可能にして 治体制の弱体化は、こうした変革への抵抗を弱めており、遠 な体制の改革であることを確信していた。文革期における政 こうした問題に直面して、鄧小平その他の改革派の指導者 一九七八年には鄧小平をはじめ中国の誰もまだ、 今必要なのは過去の政策の小さな修正ではなく、 政策転換 いた。 根本的

と側近の支持者たちは、中国がとるべき方向への鋭い意識は き、毛沢東主義やその他のドグマを拒否して、かなり自由奔放 もっていた。政治の領域では、古いイデオロギーの束縛を解 や経済改革への明確な背写真をもっていなかった。 だが、鄧

あった。 増強と同様ただちに必要だということも理解していた。過去 長を可能ならしめるより効果的なシステムを形成することで の参加を拡大することが必須だということも認識していた。 彼ら改革派は、統制をゆるめて政治を穏健なものにし、大衆 に、政権の正統性を強化して大衆の支持を確立するためにも、 て官僚機構を改革することが是非とも必要だと考えた。 復し、政治システムを組織化し、より若く有能な幹部を投入し 想を解釈し直すことを決意していた。彼らはまた、安定を回 な実験が許されるよう、マルクス=レーニン主義と毛沢東思 定の分権化をはかり、企業により大きな自主権を与えた。国せた。農業では、率先して集団化をやめ、工業では、政策決 必要だと考えていた指導部は、 た。当初から、経済により効果的な測激のシステムの導入がの発展戦略と訣別し、徐々に新たな戦略が展開さ れて いっ 組み込まれていくべきだと考えていた。 内経済の市場化と商業化の拡大が、主要な趨勢と なっ てい し、計画の方法を直接的なものから間接的なものへと移行さ た。彼らはまた、当初から、 経済における改革者たちの主要な目的は、持続的な安定成 だが彼らは、一般国民の生活水準の向上が、国力の 中国は世界経済の中により一層 ほどなく中央の計画を減ら さら

> 機械的なものでなく、 ステム 的だが深刻な、 が、さらに多くの処置を必要とさせるのである。彼らは一時 めの試みが新たな課題を生み、部分的改革への一 つの 処置 は、多くの後退と前進を含んでいる。ある課題を解決するた ものとなっている。それらのプラグマティックなアプローチ った。その結果、今日行われている折衷的な政策は、 形され応用された。さらに中国独自の考案によるものも多か し改革は進行している。 鄧の改革計画が順当に行われた後、政治システムと経済シ 様々のアイデアを借用 いくつかの後退と失敗に直面してきた。 他国から持ってきたいかなる経験も変 し たが、 その借用 独特の

重要な意味で改造させつつあることはまちがいなかろう。 ることはまだできない。だがこうした改革が、 が一体どこまで推し進められるのかということだろう。 われるべき問題は、今後、特に鄧小平が去った後、この変革 のいずれかが果してどうなるか、自信をもって予見す すでに中国を

集団指導体制と文民統制の確立

と政治の改革が分かちがたく絡み合っていることも認識して しなければならないことを知っていた。さらに彼らは、経済 の新指導部は、 とより経済の近代化は、優先的目標ではあったが、 中国を改革するためには政治的転換にも着手 北京

ても、 両分野の変革が並行して進められてきたのである。 そのため一九七〇年代末以来、方法やペースは異なっ

らく中国の保守的な指導者が望ましいと考える限度以上に実 その改革のいくつかは、外部の者の期待以上に、そしておそ 行されたのであった。 の前提条件だと見做されていたのである。にもかかわらず、 先権をもつというより、 助的なものであり、 なものであった。すなわち、 政治改革を導入する際の指導部の基本目標は、ある点で補 経済改革が目指すところよりもひかえ目 むしろ経済の近代化にとって不可欠 特定の政治改革はそれ自身の優

は、規則的に新しい「精神文明」の創造を呼びかけているが、 中国人はイデオロギーの不可知論者である。改革派の指導部 実際には現実主義とプラグマティズムが、 主義をほとんど拘束することがなくなっており、今日多くの を除く他の三つ、すなわちマルクス=レーニン主義・毛沢東 も修正されている。イデオロギーは今や、体制改革派の経験 味付けは、もはや不正確なものとなっている。党の指導の原則 原則」を継承する旨を主張しているが、そのうち、党の指導 民主主義」やその他の「不健全な傾向」を批判し、 と階級闘争の観念を否定していた。時に彼らは 退であった。 政治的変革の過程で一貫していたのは、イデオロギーの後 人民民主主義独裁、そして社会主義の道についての意 鄧と側近の支持者たちは、毛沢東的な継続革命 ほとんどの政策決 「プルジョア 四つの「基本

定においてあらゆるドグマに取って代わっているようだ。

訴えが、 らである。 現在の中国では、より良い生活への国民的希求と愛国心への れた他の多くの東アジア諸国がかつてそうであったように、 ロギーの褒退の程度をあまり誇張すべきではない。近代化さ な弱点だと見られている。 生み、これが一部の中国人や外国の観察者によって、潜在的 こうした傾向は、中国にある種のイデオロギー 古いイデオロギー 的教義に取って代わりつつあるか しかし、 政治問題におけるイデオ 的な空白を

な一人の人間による統治の再現を防ぐために、 の一つは、 を行ったというものである。現在の中国指導部の大きな目的 過ちを犯し、今日中国人が言うところの「封建的」専制主義 固な集団指導体制を確立することである。 長として欠陥があり、 る。すなわち、毛沢東は偉大な革命的指導者だったが国家の 毛沢東についての中国共産党の公式的評価が集大 成 され た ようと試みたのである。一九八一年に激論の末採択 され た 主席の歴史的役割を再検討した。そうすることによって彼ら 「建国以来の党の若干の歴史的問題についての決議」では、 毛沢東思想を解釈し直すにあたって、中国の改革派は、毛 それは多くの外国の観察者の見方と似通ったも の で あ 中国の政治システムにおける政治指導の性格を再定義し 国の支配者にまつわる個人崇拝を一掃し、専制的 一九五〇年代末以降、繰り返し高価な できるだけ堅

われる。 **制約は強まるものと思** 人物の個人的指導への この先数年は、 う。そして少なくとも 特定の

退に伴い地方の軍諸勢 てきた。 九世紀以来軍事化され る。中国の政治は、十 文民統制の確立であ 趨勢は、軍事に対する に歴史的重要性をも もう一つの、明らか 満州王朝の衰 0

のちに、政府は中国軍部の役割を限定し、その政治力を削減 ちであることを確実にした。中国共産党の勝利と朝鮮戦争の それに外部の侵略者との戦闘が、国運を左右するのは軍人た 義者と共産主義者の二つの軍隊化された革命勢力間の紛争、 された。その後、一九二〇年代から四〇年代を通じ、 力が台頭し、王朝が崩壊すると、国内は地方軍閥により に、中国の文民組織が麻痺すると、人民解放軍は力の空白を し始めたが、この試みは長統きしなかった。文革の 氾混乱期 民族主 拠

埋め、再び社会における支配的地位を得たのである。 文民統制の試みは、 すでに毛沢東の存命中から、 特に一九

つかは、 そしてその他、党軍事委主席、国家主席、 された党主席に権力が集中することはもはやなく なって い (全人代) 常務委員長、それに新設の中央顧問委の党の長老 主要な機関を代表する様々な個人によって分担されてい 地位の重複は大幅に減らされ、また、 政治局及びその常務委員会、 今ではより影響力の小さい総書記である。今日、権力 現に主席の役職は一九八二年に廃止され、名目上の党首 威は中国の上層部と指導者間に巧みに分散され、 任期が限定された。 書記処、 首位の地位のい 全国人民代表大会 国務院 (内閣)、 神格化 <

ろうか。 能性はある。 カリスマ的指導者がいないことから、鄧小平以後の中国の指 毛沢東による行きすぎの記憶、そして、目下のところ明確な 者に委譲している。長い目で見れば、専制主義が再現する可 連合の形成によって行使しており、また、 東とはかなり異なっている。

鄧はその影響力を命令によらず が、それは本来私的なものである。しかし、彼の流儀は毛沢 だがそれでも、集団指導制を確立しようという最近の努力と らであり、それは蔣介石と毛沢束の下でも維持されてきた。 ンであり、何世紀も前の皇帝の個人崇拝に根をもつものだか 今後も、 鄧小平は今でも裏面で最終的な権限を行使している 当面、 集団指導を制度化しようという試みは成功するだ なぜならこの種の指導は、中国の伝統的パター **集団的なものにならざるを得ないといえよ 着実に権力を他の**



北京原人から四つの現代化まで

る。 自身を除いて二名(両者とも正委員)となっている。 は正委員、もう一人は候補)、 そして文官の軍首脳は鄧小平 出された党政治局の中で、現役の軍司令官は二名のみ(一人 とである。今日、政権の最高指導部に占める軍代 表 者の 数 そして解放軍は再教育されて専門的な国防軍に脱皮しつつあ た。軍の管理する企業の多くは民需品の生産に切り換えられ ○○万にされようとしており、軍事予算にも上限が定められ 監督を行い、文民統制の一層の徹底化を目指している。すな 沢東が死去した時、それは全く不十分なままであった。鄧小 つつある。高齢の中堅幹部は急速に若手に取って代わられ、 わち中国人民解放軍の規模は、 七一年に林彪将軍(当時、国防相。毛が後継者に指名)がク - デターに失敗して死亡した後に開始されていた。 最も重要なのは、軍の政治的役割が極度に減らされたこ 一九四九年以来最も少なくなっている。一九八五年に選 中央軍事委主席として中国人民解放軍に対する個人的 現在、 四分の一を削減して三

らにこの変化は、今日の指導部の改革が、今後も継続される治の性格を変えつつある最も根底的な潮流の一つである。さい、近現代において最も堅固な文民優位が中国に確立されい、近現代において最も堅固な文民優位が中国に確立されらには本質的に「保守的」なため、改革派のいくつかの政策のには本質的に「保守的」なため、改革派のいくつかの政策をには本質的に「保守的」なため、改革派のいくつかの政策をには本質的に「保守的」なため、改革派のいくつかの政策をには本質的に「保守的」などが、

那トドは、 本利の は れた高めている。

ても、 の手続きに従って政策を実行することが試みられているので た方式を退けている。その代わり、確立された官僚機構とそ ン」方式が特徴的であったが、現指導部はきっぱりとこうし とが多い)。 が、普通は学者やジャーナリストの著作の中で述べられるこ と述べられている(政治家自身が公式演説で行うこともある 択は党と政府内で活発に討議され、時には意見の相違が公然 択の真面目な考慮はほとんどなされてい なかった。今日 ばしば毛一人によって採択され、周題の十分な分析や政策選 の末期には、政策決定は極度に集中化され、主要な政策がし めの手続きの改良に向け、着実に活動してきた。毛沢東時代 鄧小平は、体制の組織の改善と、政策の形成及び実行のた 政策決定はずっと系統的に組織化されている。 国を揺るがす周期的な大衆動員に依拠した「キャンペー その専門的な意見や助言を求めている。毛沢東時代に 最高指導部はまた、今日、 広範な専門家に対し 政策の逃 で

し、国の経済その他の非党的な諸機関における監督・指導のてきた。とりわけ、専門的分野へ の 党 の 直接的関与を削減求に対してより良く応え得るよう、おびただしい処置を行っり効果的に機能させるために、また、指導部と国民全体の要り効果的に機能させるために、また、指導部と国民全体の要ら、中国の改革者たちは、職権の乱用を抑えて官僚機構をよる。中国の改革者たちは、職権の乱用を抑えて官僚機構をよるれだけに、官僚機構の改革は一層切実なものとなってい

実である。 東部)が、すべての機関で首位の地位を占めていることも事 資任も負っており、四、二○○万の党員(そのうち九万人が の究極的な源泉であり、主要な政策の形成だけでなく監視の の究極的な源泉であり、主要な政策の形成だけでなく監視の することに努めてきた。とはいえ中国共産党は、今でも権威 専門的仕事から、党員の組織的・イデオロギー的活動を分離

も、党の威信と影響力は明らかに衰退している。とれば増大しているのである。そして、たとえ主要な地位をとれば増大しているのである。そして、たとえ主要な地位をとれば増大しているのである。そして、たとえ主要な地位を上で、彼らの専門知識が、イデオロギーや政治的権威の古い上で、彼らの専門知識が、イデオロギーや政治的権威の古い上で、彼らの専門知識が、イデオロギーや政治的権威の古い上で、被らの専門知識が、イデオロギーや政治的権威の古い上で、被がの専門知識が、イデオロギーや政治的権威の古いとの支配というこうした基本的な事実を問題にしているけれどの支配というこうした基本的な事実を問題にしている。低下したのに対し、あらゆる種類の専門家や職業的責任者の支配というこうした基本的な事実を問題にしている。

世代交代と権力移譲の落ち着き先

節し、指導的地位を新人事で充塡することに乗り出した。一は、一九八〇年末にその官僚制度を改造し、双方の関係を調党・政府双方の官僚制度を改革するため、鄧と彼の支持者

併された。 併された。 併された。 伊された。 伊さば、 対外経済関 は、 国務院の直接指導のもと、 部(省)・ 委員会・ 外国投資管理 は、 国務院の直接指導のもと、 部(省)・ 委員会・ 外国投資管理 は、 国務院の直接指導のもと、 部(者)・ 委員会・ の数を は、 の数を

始以前よりは良くなっている。

・一般に機構を縮小し、官僚主義的風潮を少なくし、一般に機行政機構を縮小し、官僚主義的風潮を少なくし、一般に機行政機構を縮小し、官僚主義的風潮を少なくし、一般に機行政機構を縮小し、官僚主義的風潮を少なくし、一般に機行政機構を縮小し、官僚主義的風潮を少なくし、一般に機行政機構を縮小し、官僚主義的風潮を少なくし、一般に機

し、経済活動の責任を担う機関は、より大きな影響力を獲得された。政府機関(党装置に対抗する)は一段と重要性を増、性にしても、地方の政府や企業を強化するよう下方に移譲、政治上も――が、多くの中央の組織体を 中統制解除政策の結果、重大な変化 を 生じ た。多くの権限 官僚機構間の系統関係や力関係は、政府の権力分散化政策

は引退させられ、 みない。一九四九年以前に採用された百万人以上の古参幹部 の遠大な人事異動を実施した安定政権は、かつてあまり例を その結果は目ざましかった。そのような短期間で、これほど なくともその対象)を設定し、規則化された退職制度を創出 世代交代を行った。彼らは、将来の指導者を選ぶための新し い教育を受けた専門的指導者を昇進させることにあったが、 した。その目的は、 い専門的基準を設け、 ルの半分近くの指導的官僚が、更迭された。 あらゆるレベルにおいて指導部の驚くほど迅速で広範な い人事と人事政策によるものである。中国の改革者 中国官僚機構の働きに影響を及ぼした最大の変化 四四打の省レベルの指導的官僚および県レ 官僚機構すべてにわたり、より若く、高 各々の段階で年齢制限(あるいは、 少

ラート的エリートを創出し始めた。 一九八五年、首脳部は、中央と省レベルでは千人の、県レー九八五年、首脳部は、中央と省レベルでは千人の、県レベルでは十万人の幹部候補生を党組ベルでは三万人の、郷レベルでは十万人の幹部候補生を党組ベルでは三万人の、郷レベルでは十万人の幹部候補生を党組があった。この人事異動では、それに匹敵する大人事異動があった。この人事異動では、官僚的な役立たずの人員が減らされたばかりでない。中国を現代世界の中に導くのに必要な技術をもち、一般に政府の改革政策を支持する新種のテクノク術をもち、一般に政府の改革政策を支持する新種のテクノク術をもち、一般に政府の改革政策を支持する新種のテクノク術をもち、一般に政府の改革政策を支持する新種のテクノク術をもち、一般に政府の改革政策を支持する新種のテクノク術をもち、一般に政府の改革政策を支持する新種のテクノクがある。

二年の十二全大会で選れは明らかに改革継続のための政治的基盤をのための政治的基盤をのための政治的基盤をのための政治的基盤をのための政治的基盤をのための政治的基盤をのための政治的基盤をがら趙紫翔へ、首相がから趙紫陽に交代したことである。一九八たことである。一九八たことである。一九八たことである。一九八たことである。一九八たことである。一九八たことである。一九八十二全大会で選

西欧式スーパーも出現 (外国人専用)

五十一歳で、 と交代した。 年九月の党の全国代表会議で、 委員で二名が政治局候補委員)においては、 あった。そして、新しい二十二名の政治局(二十名が政治局 出された中共中央委員と中共中央候補委員三百四十八名のう パーが六十五名の旧指導者らに取って代わり、 二百十名-同数の老齢化した指導者に取って代わった。一九八五 新顔の政治局委員と同候補委員の平均年齢は、 四分の三以上は、 政治局を輸番していた十名の古参の指導者 全体の五分の三ー 中央委員会の六十四名の新メ 大学教育を受けている。 -は、新しいメンバ 七名の新メンパ 六名の比較 して

専門家であった。彼は「慎重な改革者」として的確に描写さ 委員会委員長だが、法の制定と秩序維持を主要な任務として 調する傾向にある。 は「保守的」であり、 十代前半である李先念国家主席も、北京の熱狂的改革者より て、最近の政策の諸相を公然と批判してきた。また、同じ八 れている。陳雲は、経済の計画性と安定性の必要を 強調 人陳雲であり、 いる。最も影響力をもつのは、八十代前半になる指導者の一 っと慎重で保守的な数名の鄧と同世代の人々がまだ存在して ている。すなわち、中国の最高指導部には、鄧 ってもさしつかえない。 いる。彭真は、最近の自由化の拡大に異議を唱えていると言 の観察家たちは、 彼は、一九五〇年代以米、中国で一流の経済 彭真は、現在八十歳半ばで、全人代常務 陳雲よりさらに計画経済の重要性を強 もう一つの可能性についても推 小平より、 し

減速されるかもしれない、と論ずる者もある。し り、大きな威信をもっていながらも、指導権を掌握したり、 れば、改革のプログラムは、重大な変更があるか、 **消実に強化してきた。** 力の継承の点に関して、 政策を大きく変更させたりする可能性はないようだ。特に権 これら三人の中の誰かが鄧小平より長生きをして、自己の これは、あり得ないように思える。 多分、 若い部下を通じて-鄧は、 最近の政策を支持する連合を -に固執する可能性があ 彼らはみな老齢であ かしなが あるい は

新指導者を適切な地位に据えるために鄧小平の取った最も得の留保を許したし、多くの人々を名誉顧問に任命した。外、その過程は、非常に秩序立っており、穏やかであった。が、その過程は、非常に秩序立っており、穏やかであった。が、その過程は、非常に秩序立っており、穏やかであった。が、その過程は、非常に秩序立っており、穏やかであった。が、その過程は、非常に秩序立っており、穏やかであった。が、その過程は、非常に秩序立っており、穏やかであった。が、その過程は、非常に秩序立っており、穏やかであった。が、その過程は、非常に秩序立っており、穏やが、一名は八十代であり、一名が八十名の政治局委員のうち、三名は五十代であり、その他三い六名の政治局委員のうち、三名は五十代であり、その他三

した。 らず第三梯団の人々までも、 ものであった。彼は将来の指導者たる第二梯団の人々のみな 注目すべき手段は、鄧自身の権力継承計画のために取られた 府の指導者として、初や趙に取って代わるように て台頭してきた。四人とも一九八五年に政治局具に選出され 中で経歴を積んできた。李鵬と田紀雲の二人は、 超えたばかりである。 の者は四名で、その中の三名が五十代、残りの一名が六十を 第三梯団の人々を資成している。このグループのうち、 と目されてきた。ごく最近では、 歳)と趙紫陽(胡より四歳若い)が、鄧小平の直接の後継者 新指導者を適切な地位に据えるために鄧小平の取った最も と期待されている。 中国では、このグループ出身の者が、実質的に、党や政 一九八〇年代初め以来、胡耀邦(一九八五年現在七十 切啓立と喬石の二人は、主に党機構の 細心の注意を払って選び、 胡や趙の協力を得て、 なるだろ 鄧は 鍛練

きを通じて、 たかを計る試金石は、実際に、一般に是認された制度的手続 証はない。中国が、真に制度化に向かって、どの程度進歩し し、有能な指導者となり、 成した部下が、彼の死後あるいは完全な引退後、権力を保持 権力の継承は、本来的に予測しがたい。 秩序ある権力の移譲が行われるか否 かで あろ 彼らの間で協力し合えるという保 鄧小平が珍

る機会を最大限に生かせる人-は、比較的円滑な権力継承の期待 つ組織的に計画する指導者をもてるかである。 この 点 ここで言えることは、鄧小平が計画 が、 十分に持てよう。 現在の政策を継続させ したと同じように慎重 で

「改革と秩序」に妙手はあるか

の関係がどうあるべきかという姿勢にかかわるも 始めたのであり、その理由は主として、 ったとの議論もあろう。 影響を与えた。その一部は体制の改革とはほとんど関係なか 上のようなすべての変化は、中国での政治生活に重大な にもかかわらず実際に体制は変化し 統治者·被統治者間 ので あ

多大の努力が必要である、 エリートと大衆を和解させ、 鄧の下での改革指導者は、 との認識を最初からもっていた。 体制への支持を拡大させるべく 毛沢東時代の混乱以後、中国の

法の手続きを含む一定の基本的人権を保証すること によっ 組を創出するためであった。しかし、指導者たちは、正当な 会主義的法制」に関する大衆の教育を目指している。一つの 法律や規則を採用し、体系的な法を発展させている。すなわ 潮流の重要な一部分をなした。指導部は、多くの私生活上の 書物を読んだり、寺院や教会に行ったりすることができる。 ることもなく、Tシャツを着たり、 なされた。現在では、人々は、躊躇したり、批判されたりす 的目標の追求や、反体制的態度のあらゆる徴候は危険だと見 整備されつつある法体系は、依然、 活領域の多くは、 大しようとした。 元主義を許し、情報や思想の伝達の増大を認めた。 心を認めるよう政治的締め付けをゆるめ、自由化することで 彼らの基本的な手段とは、地方のグループ・個人の利益や野 「社会主義的法制」を強調し、政治生活の草の根的参加を拡 一九七○年代末以降、徐々に法体系を整備していったこと 彼らは法廷や検察を改良し、法関係職員を訓練し、 国家官僚を束縛し、 一層安定し制度化された革命後社会へ向かっての大きな 彼らは、制限付きではあったが、増加した多様性や多 契約的な経済関係を処理するための効果的な法の枠 非政治化された。以前は、個人的、非政治 国家の社会への浸透力は、 人民の支持を集めようとも望んだ。 金魚を飼ったり、外国の 個人の権利を保護する 大方減退し、 指導者は、

むしろ国家を守り、 社会的秩序を維持する

問われている人々同様に、重大な党規約にそむいた者や現政 でも、 な労働収容所を運営している。 政府は、巨大な人民保安機構を維持し、 治体制に挑戦するものに対して、 に大きな重きを置く。にもかかわらず、 益を守るためには、法的手続きをとるよりも、個人的なコネ ためだと強調されている。 恣意的な支配への新しい制約となり、 しできることなら、法律を避けようとし、 政府は、 しかも、 厳しい罰則を課している。 一般的犯罪や汚職の罪 民衆に正常な法感覚を 法制化への潮流は、 依然として、 一般の中国人は、今 自己の利 組織的

る。 は、 与えた。政権を握って が いる人々への恐怖感 ずっと弱まって 以前より現在の方

中国経済の拠点 を見ている。現在では、 報の異常な爆発的急増 治的・社会的風潮を生 は、毛沢東主義者の時 対する寛大さへの潮流 あらゆる種 み出した。中国は、情 代と非常に異なった政 多様性や多元主義に 類の事

> いるか、 る。 る。そして、目下多くの知識人たちは、重要な地位を保って くの知識人をその独自のランクに位置付けようと 試 みて に利用することが肝要であると認識している。 降より現在の方が高い。現在の指導者たちは、中国の近代化 制への基本的反対を意図したものでない限りではあるが)。 ある(それが公然たる反体制的なものを意図したり、 過去の中国を再発見している最中であり、また、 を推進するためには、国家に存在するすべての人材を効果的 議論が存在し、 ある。ほとんどすべての中国問題に関する公然と腹蔵のな も発見しつつあるが、これは一九四九年以来初めてのことで く伝達され、多くの中国人の視野を大きく拡げた。 **集団としての知識人の地位は、** あるいは、党や政府や他の機関の顧問となって 問題に対する代替案の討論は、 少なくとも一九五〇年代以 党は現在、多 かなり自由で 外部世界を 中国は、 政治体 い

が、本・雑誌・新聞・ラジオ・テレビを媒介として、社会に広

奨励してきた。 選挙を郷レベルまで拡大し、地方選挙では、複数候補者制を 増加した。 少した。しかし、 ペーンが放棄された結果、政治生活への大衆のかかわりは減 政府と大衆との間の政治的関係もまた、 実質的に 変化 ある点では、政府の統制が弛み、 選挙制度にも実効性を与えようと、政府は、 今までにその効果は、 他の点では、より規則化された大衆参加が 期待されているほど大 旧式の大衆助員キャ 直接

• 上海港

はなるできたが、手生によってものですのかりです。 増大してきた。 増大してきた。 が依然として、多くの場で選挙の過程を操作しているからである。にもかかわらず、幹部に対する下からの大衆の圧力はある。にもかかわらず、幹部に対する下からの大衆の圧力はある。

しているの別流は、中国の牧台となるための政府の努力は、これのの側の(原則的には中国における政治の、代表、機関であるので、過去においては、ほとんど責任を担っていず、象徴的のに、過去においては、ほとんど責任を担っていず、象徴的のに、過去においては、ほとんど責任を担っていず、象徴的の機関(原則的には中国における政治の、代表、機関であるの機関(原則的には中国における政治の、代表、機関であるの機関(原則的には中国における政治のの政府の努力は、こ人民代表大会を再び活性化させるための政府の努力は、こ人民代表大会を再び活性化させるための政府の努力は、こ

一般では、一般を表していたので、その変化は、一般を表しかし中国人の見方からすれば、彼らは、長年極端な全体主力、真に競合的な選挙方法を、路んで受け入れてはいない。指導者たちは依然、自由な報道機関、野党や反政府グルー

最近の潮流は、中国を徐々に西欧的感覚での大きな民主比ない、より多元的な権威主義体制へと変化していった。あった。比較的短期間にその体制は弛緩し、あまり強圧的であった。

北京の現在の指導者は、多分、統制不可能な多元主義の伸北京の現在の指導者は、大多元主義的民主主義を望んでいる際に生ずる問題、それらすべてが、たとえ解決されたとしてい。中国の権威主義的伝統や深く中国人に根ざした混沌へのい。中国の権威主義的伝統や深く中国人に根ざした混沌へのい。中国の権威主義的伝統や深く中国人に根ざした混沌へのい。中国の権威主義的伝統や深く中国人に根ざした混沌へのい。中国の権威主義的伝統や深く中国人に根ざした混沌への恐怖、それに中国のような巨大で多様な国家の統一を維持する際に生ずる問題、それらすべてが、たとえ解決されたとしても、中国の指導者は権威主義的指導者へと向かうだろう。も、中国の指導者は権威主義的指導者へと向かうだろう。

満が、さらに公然と行われている。もしも、批判や不満が非満が、さらに公然と行われている。もしも、批判や不満が非でいる。また、新しい政治的な緩和の状態の中で、批判や不明を引き起こしている。外国人嫌いの衝動が、表面下に潜んのお引き起こしている。外国人嫌い、新しい社会の緊張と亀裂を生み出している。政治統制の弛緩は、社会的規律を弱めている。 地している。政治統制の弛緩は、初来、矛盾する圧力を受けるいるだろう。 政府の指導者は、羽米、矛盾する圧力を受けるいるだろう。 政府の指導者は、羽米、矛盾する圧力を受けるいる。 また、新しい政治的な緩和の状態の中で、批判や不満が非常が、さらに公然と行われている。もしも、批判や不満が非常が、さらに公然と行われている。もしも、批判や不満が非常が、さらに公然と行われている。もしも、批判や不満が非常が、さらに公然と行われている。もしも、批判や不満が非常が、さらに公然と行われている。もしも、批判や不満が非常が、さらに公然と行われている。もしも、批判や不満が非に、ない。



改革のプログラムは、 中国の政治体制以上に、

経済体制を

対外貿易は二倍以上になり、

第六次五

ヵ年計画(一九八一年~八五年)の

一九八五年には約七百億米

経済関係の大幅な拡大と多様

七次五カ年計 画 開放

と分権で順調な滑

ほぼ確実に、

社会的生活が一層の多元化を経験する際に、

んに要求してきた。

そのような抑圧は、

ある時点で

より基本的には、

政治との衝突的には、経済的

「民主化運動」であった)

を盛

の過熱と動揺の末、

古い

腫を悪

化させ、

問題を創出

経済的安定を

N

する

た。

それに

もかかわら

最初は

非常に複雑だっ

経済

人らは、 するだろう。

真の多元主義と民主主義

なくとも今世紀初頭以来、

一部の

に増大するならば、

政治的統制を引き締める強力な圧力が

只中にあるので、 すでに変化させて

経済は、 いる。

将米最大の変化が期待できる領域

北

京は、

経済改革の試み

の真

るだろう。

は増大しよう。

経済と政治は、

どの

でも、

も並行し

経済改革に乗り出したが

鄧と他の改革

推進派の指導者は、

まもなく真に組織的な

ったんそれが開始されると、

2

一九七九年にさか

の

一九七九年と一九

「再調整」政策の採択を余儀なくされ

九七九年までに、

ない。

権威主義的政治は経済的多元主義が成長し

うな国々に

増大してきている。

って逆行するであろう。

存続するよう

要課題である。

北京の最初の劇的な変化は、「対外開放」政策の採択であっ

その政策は、

中国の

自由化さ 要するに、 つつある多くの発展途上国で存続している。

政治的自

由主義を求める圧力が次第

このよ

の過程は、

次第に推進力を得た。

もし政治的

中国の対外経済関係の変更と国の農業システムの改良であ

八四年の間の最初の局面では、

指導者達の焦眉の問題点

は

そこには改革の論理的理由があった。

かなり

の包括的改革に乗り出

中国は、

一九八四年末以米都市

の工業・商業シス

九八六年に着手され

た北京の第七次五

年計画の最重

購読しませんか

一冊の「月刊・自由民主」には、"日本 の現在"が凝縮されています。タイ ムリーな内容と親しみやすい誌面は、 まさに現代人の必読の書。あなたも 「月刊・自由民主」を購読しませんか。

年間購読を申し込まれる場合は、送料を 含め購読料6,000円にて予約を承ります。



料金受取人払

便

東京中央局承認

3473

差出有効期間 昭和161年11月 14日まで

(切手を貼らずに)お出し下さい。)

(受取人)

東京都千代田区永田町

1 - 11 - 23

自由民主党広報委員会出版局 「月刊·自由民主」係行

竹村健一(評論家)



インタビュ ーを通じて. 国政のトッ プレベルで 活躍してい る方々の人

柄にまで触れることができ、 楽しく対談しています。読 者の皆さんが"そこが聞き たい"というポイントをは ずさず、相手の人柄も引き 出そうと頑張っています。

お申し込みは、 右側ハガキ、ま だはお電話で。

- ①ハガキでお申し込みの場合 右側のハガキを切り取っ てご記入のうえ、お送り ください。
- ②電話でお申し込みの場合 203-581-6211 内線509 「月刊·自由民主」係
- ●お支払い方法

お申し込みをいただきまし たら、専用の振込み用紙を ご送付いたしますので、郵便 局よりお振り込みください。

自由民主党広報委員会出版局 〒100東京都千代田区永田町1-11-23 四(03)581-6211(代) 郵便振替東京9-195000

(必要事項をご記入の上、切手をはらずにご投函下さい。ご希望の号か (ら直接ご郵送いたします。なお購読料は後目ご請求申し上げます。

●ご氏名

男・女

月号まで

部)

フリガナ

●ご住所 〒

3 (

既読期間 昭和 年 月号より昭和 購読いたします。

(部数·每月

年

189

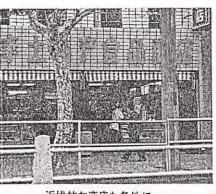
五九〇

(一九八五年末における試算では、

い種類の対外経済関係の発展は、

それに関係する中国

第七次五ヵ年計画では、貿易増大のペースをいくらか落とす 四年から八五年の間の輸入騒動は、多大な貿易赤字を生み出 ジェクト、及び兵器売買さえも急速に拡大している。一九八 出を促進し、 用品同様、 の二〇訂近くにものぼった。中国は、現代化に必要な他の日 五十米がの赤字を含む約七百億米がへと上方に訂正した)。国 億米がであったが、 内総生産の比率として、 る。 外貨準備高を危険なまでに減らしてしまった。 増大する輸入の支払いのために、 増大する設備や科学技術を外国から購入取得して 観光事業で得る外貨の収益や、海外の労働プロ 二ヵ月後、国家統計局はこの数字を、 財とサービスの取引は、およそ二倍 中国は、精力的に輸 その結果、



近代的な商店も各地に 政策は、 Ŕ しかし、 向の政策に向かってい 種の輸入代替である。 然強く力説している。 を拡大する必要性を依 今後五年で四〇計ぐ る多くの兆候がある。 らいの仲ぴ 北京の基本的な貿易 政府は輸出入双方 徐々に輸出志 相変わらず けれど

> と述べた。 を約束し、中国は、続けて「輸出商品の生産のための新第七次五ヵ年計画に関する報告の中で、輸出産業のための新の上述で、 のための新り、中国は、全国人民代表大会における

場における中国の競争力向上に寄与している。 関易が拡大したので、北京は、地方当局や個人企業に意思 関易が拡大したので、北京は、地方当局や個人企業に意思 関易が拡大したので、北京は、地方当局や個人企業に意思 関易が拡大したので、北京は、地方当局や個人企業に意思

ことが必須であるー

本)や国際的銀行家が含まれる。 際機関(世界銀行のような)や外国政府(最も顕著なのは日 直接投資に対する姿勢を根本的に変え、 各種の財源からの借款を増大させているが、その中には、 極的に勧誘している。一九七九年以来、 の変化も、より劇的になった。中国人は、 北京の新貿易政策が重要になるにつれ、 一九八五年末までにー 中国向けの貸付け契約はもっ 公式声明による 指導者は、 現在では、 海外借款と外国 他の対外経済政策 徐々に、 両方を積 ٤ Ξ 0

中、借款は二百億米がにものぼる、という。に大幅に増加するだろう。ある見積りによれば、 そ の 期間に 海外からの借款は、おそらく、第七次五ヵ年計画の期間中高いが――百三億米がの海外からの借款を利用している。

奨励している。 り貿易・中国国内での外国企業一〇〇哲出資の企業誘致等も な合弁事業であるけれども、共同生産協定・保障貿易・見返 すべき柔軟性を見せている。 創設しようと試みたー 中国人は、投資を誘致するために必要な法的枠組を、急速に とさえ、毛沢東主義者の時代には、タブー 後国からの直接的な投資を誘引するという決定が、 た海外投資の合計は、百六十億米がを超えている)。 直接外国投資を誘引し、それ以上の約定を得た、という(あ 外国の貿易商や投資家と取引するための特権を与えた。一九 くの都市・省・地方、特に、これらの沿岸地域に対しても、 外国企業との様々な協力形態を進んで受け入れるという注目 の油田開発協力事業を規制する特別法を含んでいる。北京は、 すべきものだった。なぜなら、そのような可能性を論じるこ る中国の情報筋によると、 八五年末までに、 対外開放政策の結果によるすべての新機軸の中で、 中国は、 趙紫陽によれば、中国は、五十三億米ずの ーその中には、 四つの経済特区を設けたが、 一九七九年~八五年の間に契約 中国の志向は、 合弁会社設立法や沖合 だったからである。 明らかに、平等 最も驚嘆 他の多 資本主

> 第一に、 ない。 わらず、 業に対するそれらの「デモンスト いる。 ることを外国企業が嫌がっていること、等である。 的小さな規模であること。第三に、高度の科学技術を譲渡す しては、次の点で、 進科学技術を獲得することの二つを優先させている中国人と 備高が少なくなった結果、一九八五年以降、深刻になってい 働力と原料にかかる相場が高騰すること。第四に、 主要な目的である)を制限されていること。第三に、 市場への接近(これが、 ない。外国企業は次のような点に対して不満を抱 の資本投資の全般的な水準。第二に、多くの共同事業が比較 障害があること、 生活用品を購入したり、利益を本国に送るための外貨獲得に 人にとっても、 交易収益のための輸出産業を発展させること、 中国での合弁会社がもつ最大のインパクトは、 外国の投資は、中国の現代化に価値ある貢献をして 中国流の官僚主義とその非効率。第二に、 外国企業にとっても、 等である。これらの問題は、 失望している。第一に、 中国に関心を抱く多くの外国企業の レー ション なまやさし 効果」 期限付きの外国 中国の外貨準 いている。 VI にもか および先 海外から 中国国内 B 中国 地方労 もし ので か

と、多くの経済・科学技術協定を結んだ。中国の科学・教育な国際経済機関の主要な参加国となった。北京は、外国政府団の他の変化も生じさせた。北京は、実質的なすべての重要対外開放政策は、中国の対外経済関係において、幅広い範

れていない――資本主義国へ派遣したことであろう。は科学や技術の分野を専攻する)を――他の共産国では行わも重要なことは、中国が、三万人以上の学者や学生(大多数機関は、外国の機関と幅広い関係を打ちたてた。おそらく最

その門戸が閉じられる可能性はない。 これらの展開は、中国を世界経済に一層深く運輿させ、経生の門戸が閉じられる可能性はない。 これらの展開は、中国を世界経済に一層深く運輿させ、経ての門戸が閉じられる可能性はない。 これらの展開は、中国を世界経済に一層深く運輿させ、経ての門戸が閉じられる可能性はない。

のた第二の分野は、農業であった。鄧小平が権力の座に返り咲いた直後に、遠大な変化が始ま

団化は解消し、家族経営の農業に回帰した。とする請負制度を全国的に推進した。その結果、事実上、集制」が試みられた。結局、指導部は、個々の農家を経営基盤の組織化の実験を始めた。多様な形態の請負的な「生産責任の農業生産品の値上げを決定した一九七八年から七九年にかの農業生産品の値上げを決定した一九七八年から七九年にかの農業経済の刺激をねらった最初のステップは、政府が多く

政府は、少なくとも農業生産を統制する単位としての人民

きたが、 制は、 してきている。 敷いているけれども、 契約を結ぶ。要するに、政府は、依然、農業に相当な統制を 府は、農家が特定した農産物を購入するために、 へ強制的に売らねばならぬ義務的な数量を、継続的に定めて いは国家に売ってもよいー の農産物を自由に処分し の課税を支払った後、農民は、自己の選んだやり方で、正味 分自身の土地を独立して管理できる。また、税金や他の種々 何を植えるべきかという実質的な決定権をもっているし、自 年間自己の上地使用を保証されている。すなわち、農民は、 には、 が、多くの場所では、生産隊が、依然、機能している。公式的 部の人民公社と生産大隊は、地方の工場の経営を続けている 公社(一九五八年の毛沢東の劇的な新機杣)を廃止した。 個々の農家に分散化した。農民は、現在短くとも十五 農地はいまだに集団所有制である。しかし、農業請負 一九八五年に、それらは廃止された。現在では、政 政府の直接的な浸透力は、 -消費しても良いし、 ―できる。一時は、政府が、国家消費しても良いし、自由市場ある 毎年農家と 大きく減退

へ、サービス業や他の非農業的職業へと、移って行った。地族は、農業から地方工業へ、副業活動や輸送に関する仕事た。農業への投入量、特に化学肥料が増大した。穀物の急速た。農業生産組織の変化が、農業経済の成長に影響を与える唯農業生産組織の変化が、農業経済の成長に影響を与える唯

農業雇用への移行は、急速なペースで続いている。方工業は、驚くべき割合で拡大した。また、地方労働力の非

労働生産性の伸びは四倍以上にもなり、また、農地の生産性 う。四半世紀以前と比較して、一九八○年代初めには、農業 伸長した。そして、 間中の全体的な農業生産高は、年に八對し のそれは、二倍以上にも達している。第六次五ヵ年計画の期 とであり、 の平均年成長率は、 一九八〇年にかけての長期的趨勢でも二倍以上し 農業の収穫高および地方経済に関するこれらの潮流の結果 一般的に言って、目ざましいー おそらく、どの発展途上国にとっても 同様 だろ 第六次五ヵ年計画中、 一三・七對だった。 中国にとって空前のこ 農業での個人所得 ―一九五三年から ーを超えて

は、都市部における食糧の価格を低く抑えるために、多額のたり投資しないため、インフラストラクチャーの発達が遅れたり投資しないため、インフラストラクチャーの発達が遅れたり投資しないため、インフラストラクチャーの発達が遅れたので脚光を浴びた――が、懸念をひき起こしている。改革ので脚光を浴びた――が、懸念をひき起こしている。改革ので脚光を浴びた――が、懸念をひき起こしている。改革ので脚光を浴びた――が、懸念をひき起こしている。改革ので脚光を浴びた――が、懸念をひき起こしている。改革ので、もっと多くの子供、特に男子を望んでいる。また、改革で、もっと多くの子供、特に男子を望んでいる。また、改革で、もっと多くの子供、特に男子を望んでいる。また、改革で、もっと多くの子供、特に男子を望んでいる。国家や農民が成功によって、新しい問題が持ちあがった。国家や農民が成功によって、新しい問題が持ちあがった。国家や農民が成功によって、新しい問題が持ちあがった。

補助金を必要としている。

じる理由もある。母近の異常な成長率は維持できないけれど ろう。しかし、それは、手がつけられぬほどのものでも 反転する可能性は、ほとんどない。多くの農民は、 勢では依然上昇している。近い将来に現在の政策が基本的に 合で成長し続けるだろう。北京の立案者達は、第七次五ヵ年 も、農業収穫高は、たぶん、中国の必要量に見合う十分な割 い。農業での偉業が、ひき続いて成功談になるだろう、と信 成功は、系統的変化を意図する政府の幅広い計画にとって重 に言うと母近五年間のそれの半分であるが、 大な意味をもったし、また、都市改革のための基 礎 を 築 これらの諮問題は、当分、 高位に置かれているが、それは、容易に解決されないだ 年平均農業成長率四罰を要請しているー 強い既得権益をもっているからである。農業改革の 中国 の立案者 の計画表の上で 中国の長期的趨 大さっぱ

新経済政策の成否は価格改革に

乗り出したのは、「経済構造改革についての中国共産党中央たものだった。政府が現在進行中の野心的な都市改造計画にれたが、一九八四年まではほとんどの政策が試験的で限られ工商業経済の改革は、一九八○年代初頭に実験的に始めら

経済形成への変化を提唱したものである。 發」と換言できよう)。 (中国人自身は言わないが、これは中国式「市場社会主 「社会主義商品経済」の創設である、 中国の指導者たちは、 国家計画がより小さな別の役割を果たすという、 これは、市場がより大きな役割を果 彼らの究極的な経済目標 と今日定義づけている は 混合 L

委員会の決定」以後のことである。

融政策に依存しようとしていることを 意味 する。このよう 方向性計画へ、つまり、直接管理からより緩い間接的な調節だぎ。三の最重要商品」に限る、と公言 して いる。指令計画から かりつつある。 が国家の発展をもたらすために、一定の量的な指標よりも、 京は現在、今次計画の末期には中央の管理を最終的に「二、 現時点の計画では、より抜本的な減少が要求されている。 への着実な移行もまた進行している。それはすなわち、北京 生産物の数は、百二十から六十へとまたたく間に半減した。 一九八四年、 中国経済の方向づけは調節的な手段への依存を徐々には 信用、利率、 中央に従属し直接指令計画をうける主要工業 為替に関する施策や広範な財政・金 北

陽は三つの基本目標を掲げた。「企業のより一層の活性化」、 「社会主義商品市場の発展のためのより一層の努力」、「新し 社会主義マクロ経済運営システムの 確立」である。 一九八六年三月の第七次五ヵ年計画に関する報告で、 趙紫

> 造」と呼んだ、頑強な 分権化は当然 がら、趙紫陽が古 することである。この 定権の権限移譲を継続 「硬直化した経済構 人企業への経済政策決 **かのことな** い

以上が、 に対する統制さえも行っていない。中国国内の全投資の半分 なく諦めたのはもちろんのこと、 がほとんどの企業や多くの生産物に対する直接の管理をやむ んでいる。 現在中央の計画および国家財政の外におかれている もはや、 以前のような投資

等機関の下部単位として業務してきた。現在の目標は、 れている。これまで、企業は本質的に、 企業の政策決定権を増大させるために数々の手段が講じら 中央省庁や下級の同 企業

が、成功しているのはごくわずかである。

は投資に対してより大きな統制を再構築しようと し

が、これは深刻な問題を生み出している。

結果として、

北京

7

VI

る

ず、分権化はかなり進 官僚層の抵抗を受けて にもかかわら 中央の官僚

いる。

人民の団結を意味する五星紅旗

長することを政府は積極的に奨励している。 を復活し拡大するところから始まり、新しい種類の市場が 々の市場が急増した。伝統的な小規模の自由市場 対応した価格が決定されるシステムであ 成

ろう。 には、 えも、現況に対するはっきりした見取り図はもっていないだ を示す信頼しうる統計はないし、 行われるものが増えた。地域レベル、全国レベルの市場が少 の取引きは、 を出している省もある。 営の商業ネットワークの外で活動している、 の一から二分の一の商品流通機構が国家の配給システムや官 しずつ発展している。市場化の過程がどの程度進んでいるか 生産財を取引きするものも再出現した。 しかし、 国家の商業チャンネルよりも直接交渉によって 中国の経済学者の中には、全国ですでに三分 おそらく北京の当局者でさ と個人的 卸売り市場の中 企業と地域間 な見解

的流動を促進するための制度的施策」をも提唱している。 るのは、配当の振り出しに関する実験である。二、三の選抜 (利率は相変わらず非現実的なほど低いが)。 資金を、簡単に企業に割り当てるようなことはしない。企業 としては重要である。国家はもはや、投資や運転資本向けの までのところ、この方面の歩みは小さなものであるが、 された企業では、 は、そのような資金を政府の銀行から借りなければならない 政府の計画は、 雇用者や他の機関に対して株式を売り出し 「資本・技術市場を開放 L 最も興味をそそ 労働力の合理 傾向 今

税制度が所得分配にかわって導入されている。 上げその他の目的で保持することの許されている利益の により多くの自主性を与えることである。 システム 一九八〇年代初頭に始まったが、初期段階の一つに所得分 徐々に増加した。一九八四年以降、まったく新しい の導入があった。企業が、 再投资、 この方面での実験 給・賞与の引 所 割 合

多数は完全に自らの損益に責任を負うべきである」という。 うに思われる。 ないであろう。 りわけ総合的な価格改革の効果が出るまでは十分にあらわれ 徐々により効率的な自主性をもつことになろう。 な改革プログラムが計画通りに遂行されれば、中国の企業は かりに一九九○年までに遂成されなかったとしても、 もっとも、 企業改革の目的は、 **損益の責任を企業自身で負えるようにすることである。** 改革の潜在的な利益は、政府の他の改革努力、と 政府によれば、一九九○年までに「企業の大 けれども、改革は今後、加速度的に進行するよ 生産性向上のための強力な刺激を創 出

管理ではなく、 打ち込んでいるシステムは、国家の配給・分配システムの役 考えていた以上に急速に進んでいる。中国の改革者が創出に の決定的に重要な側面であり、数年前に多くの中国研究者が 割が大幅に削減され、商品と生産物の大部分が国家の直接の 市場の拡大と商品経済化-ントであるー 調整による多角的チャンネルで流通 は、政府の総合プログラムの中でもう一つ -これは趙紫陽報告の第二のポ より



考えている。 式市場の創設を真剣に

譲渡は 不可能 なも

の

中国人は官営の株

は現時点では個人間の

これらの株式

ている。 大を促す処置はなされ る労働・賃金体系を改 市場はまだ存在してい 中国には本来の労働 労働力移動の増 しかし、現存す 改革過程の初

り直接的に業績と結びつけるよう積極的働きかけを行うであ を廃止する意図があるので、今後、企業に対して支払いをよ 者の大部分がそのもとで働いている全国的な「八級賃金制」 ようとする経営者はまずいない。雇用者の掲げる「親方五色星旗」 たり解雇したりする権利をもっているが、もっとも非能率な き上げ、賞与を再導入した。企業は現在、 別においては、 |再導入した。企業は現在、原用者を雇い入れ北京は労働者をもっと刺激するため賃金を引 しかし、政府は、都市労働 があっても、これを打破し

全体的な改革プログラムの一環として、 政府は、 中国にお

> きの一○對に近づき、中国の都市におけるあらゆる種類のサ きは工業生産量の一對以下ではあるが、現在、全小売り取引 集体企業のシェアは二五訂に上昇し、また、 規模の個人企業も速度はやや遅いが成長している。 は、国家や個人よりも集団で所有され経営されている)、 集体企業は近年著しく成長しており(中小規模の工商業企業 ける所有制度の多様化を慎重に試みている。国家は依然すべ ピス提供に重要な役割を演じている。 の大規模な都市工商業企業を所有し、経済を支配しつづけ 国営企業が工業総生産の六三智を占めた一方で、都市の る。にもかかわらず、北京の然心な指導により、都市の 小規模個人取引 一九八五 /\

発展の鍵になる」ことを認めている。 をも引き起こす。しかし、中国の指導者たちは、「価格決定、 済全体に波及効果をもたらし、インフレの危険を伴うもので 改革や市場の発展といった政府の他の試みの多くを成功させ 価格統制システムの改革は、社会主義市場システムの確立と ある。それは、経済を不安定にするばかりでなく、社会不安 いるのには、それなりの理由がある。 るための先行条件である。指導部がこの分野を慎重に扱って つ困難なのは価格改革である。 システムを変えようという北京の努力の中で、最も重要か 効果的な価格改革は、 価格変動はえてして経 企業の

中国は現在、これまでに比べればわずかではあるがなお国 くつかの価格を設定するという、 多層価格システムへ

局者は、 ある。 体系的な調整」に置かなければいけない、と彼らは言うので 激化したインフレの後、 加するであろう。 場における需給関係によって決定される価格の数が着実に増 で変動を許されるものもあるだろう。 と移行しつつある。 ルに対応した自由価格が増大している。 「しのびよる価格改革」と呼びうるものはより緩かなシステ のもとで決められたとおりに継続しており、 と述べている。 価格変動は公的には減速しているにもか か わらず、 一九八六年には、価格システムの大幅な変更は行わ 価格統制局によって定められた上限と下限の範囲 一九八四年末から一九八五年初めにかけて 売り手と買い手の間で交渉されるも つまり、 価格改革の趨勢は鈍化した。 当面の強調点は「計画価格の だが、比較的自由な市 市場のシグナ 中国当

地方投資の高まり、 を起こしてしまった。 大きな施策は一時的なものに終わり、マクロ経済の統制不能 直後と一九八四年から八五年にかけて)にわたる分権化への つづけるであろう。 同期よりも二三哲道)、 (およそ一七○億ぶから一一○億ぶへ)を招いた。 指導部が統制不能やインフレの招米に危惧を抱いているの 工業成長の過度の急速化(一九八五年上半期は前年 い価格システムへの前進は、今後もおそらく拡大し 通貨・信用の過剰増加、給・賞与の大幅 一九七〇年代後半以降二回(一九七八年 一番新しい事例では、 激しいインフレ、 外貨準備高の激減 分権化政策は、 公式の統

> までには相応の統制のもとにおかれる状況をつくった。 要な消費者物資で一時的にせよ優に二〇智を超えたものも多 **気変動を避けるべくはっきりとした態度を示さなければなら** れゆえ、改革派の指導者たちは、将来においてこのような景 内のより穏健な改革を好むグル な景気変動は、 し、影響のいくつかは残存したままである。 数字よりも の小売り価格指数は八 よって調整された)は、 改善してゆかねばならない。 に、不安定だった過去の変動を繰り返さないための能力をも 2 政府は金融その他の経済的施策の改善を進めると同時 たと思われる。 かなり高かったはずであり、都市によっては、 一九八五年の総インフレ 広範な不安と不満を生ずる。さらに、指導部 年央までに北京は手綱を引き締め、 ・八粁の上昇であるが、 七캙をわずかに下回っている。 ープの発言力を強化する。 (国民所得引下げに この種の不安定 実際にはこの 年末 公式 しか そ 主

「世界に加わった」中国は改革に成功する

年計画中の工業成長は年平均一二智(地方工業を含む)に達 言えよう。農業は異常なまでの成長を経験した。第六次五ヵ とは何であろうか。概してそれらは目を見張るものだったと した。これは、 毛沢東以後一○年の間に起きたあらゆる変化の量的な結果 過去の実績に照らせば、 農業ほどきらびやか

○年代以降の通算に比して二倍近くになった。計画期の中国GNPの成長率は年平均一○智に達し、一九五の水準にある。農業の例外的な実績のために、第六次五ヵ年な成長率ではないが、通算の中国工業成長率よりはかなり上

打 の G な後退をもたらした一九五○年代から一九七○年代末にかけ 改革派はそれらに現実的に対処している。それゆえ、 低所得国から中所得国になるであろう」と結論づけている。 観的な成長への見解を示し、「今後二十年間に、 近づくであろう。 らの目標をいくぶん下方修正するかも知れないが、 ての時期でさえも、 かなり速いテンポで続くであろう。 質の伸びに近づけるには、 今日の現代化政策推進の開始にあたって設定した目標である 次五 一人当たりGNP三百ずから八百ずへの増加に必要な年約五 八〇年比)全国の工農業生産額を四倍にし、 平均成長率を提唱している。 に不均衡と緊張を生み出しているからだ。 ましいものでもない。というのは、それによってシステム 指導部の直面している問題は、依然大きなものであるが、 このような高い成長率は持続的なものではない カ年計画では、工業生産量とGNPの双方で七・五對の NP成長率を維持しなければならない。 一九八五年の世界銀行の報告書は概して楽 通算の成長率は(大きな変動はあったも 中国は今後二〇年間、およそ年七 四暦二〇〇〇年までに、 大きな政治的誤謬が深刻 したがって、 中国の指導者が 中国人はこれ 中国は今日の 目標には 成長は 二九 また望 第七

のの)平均五~六智であった。

ない 国における改革の試みも他の国々と同様失敗に終わるのでは 側面を混合しようという経済は実現不可能であり、 るものの、 ている。 階で、 き合いに出して、 る。中国の懐疑論者は、より緩やかな、穏健な改革を主張し る経済の構造改革が本当に可能かどうかという懐 疑 論 が あ を創り出すのに成功するであろうか。改革過程のあらゆる段 それにしても、 国内の抵抗はもちろん、内外において現在行われてい と論じている。 海外の懐疑論者は、中国の改革の方向性は認めてい ソ連プロック諸国の改革努力の失敗をしばしば引 指令経済と市場システムという相容れない 今日の改革は新しい社会主義経済システム

ずしも より徹底的に行われなければ十分な効果は現れ とは思われない。 あろうし、 国が大きな経済的災害を経験しない限りは、それによって必 でも続くであろう。問題や後退は確かに生じるだろうが く強力に取り組んでおり、この努力は次世代の指導者のも 導者は改革が「旧構造を排斥し、新構造を建設し」続ける している。 2 ともな理由がある。趙紫陽も言っているように、 しかし、 中国の指導者が現在の路線を踏みはずすことはないで また、 懐疑論者の方が間違っていることを信じさせるも 中国の改革派の多く、特に若年層は改革が 近い将来においてそのような事態が起こる ない、 中国の指 と認識 디그 ٢

外の経済政策の転換に中い、すべての外交政策の重要な変化共産党政権になってから初めて「世界に加わって」おり、内他の国々と中国との関係主大きく変えつつある。中国は現在、一以上の人々の生活を重もとから変革しているだけでなく、中国の改革プログラニュ成否は、世界の他の国々にとって中国の改革プログラニュ成否は、世界の他の国々にとって

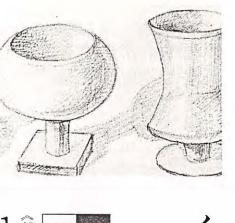
の戦 すべき例外であるが)。現在の「自主外交」を一九八一年か 制にかかわらず、事実上すべての国々と経済同様に政治的結 を退けたように見える。中国は今日、イデオロギー さえも一九八二年以降、 デオロギー つもモスクワとの限定的緊張緩和の達成に努めている。 ら一九八二年にかけて採用して以来、北京は事実、二超大国 びつきを正常化し拡大しようと試みている(ベトナムは特記 が同時進行している。北京 略競争からは解放され、 的目標を築てたように思われる。 毛沢東時代特有の闘争的アプロー 戦略的に米中のより緊密な関係を望 は ワシントンとの関係を改善しつ 海外における旧い革命 安全保障政策で や政治体 . 1 チ

る。 む声もあるだろうが、 ば、穏健で建設的な国際的役割を果たすであろうことは、 舞うだろうか にも世界的にも国際情勢の中の安定要因として見るべきであ 7 超大国の中では非同盟であるとしても、 メリカ人の中には、 中国は、より強大になっている二十一世紀にはいかに振 中国が近代化と改革に失敗するのではなく成功するなら してよいであろう。 0 離も予言することはできない。 穏健な改革派による近代化途上の中国 むしろ、 しかしなが 地域的

(タイトルおよび見出しは編集部が付した)

CIEN YEARS AFIER MAO by A. Doak Barnett © 1986 by The council on Foreign Relations, Inc. Reprinted in translation by permission of Foreign Affairs, Fall 1986 = THE YAMAMI AGENCY, Tokyo>





石 唐沢俊二郎 竹 田 山原 隆 勝

彦

第1 (第十一回)

科学技術部会 人類と科学の夢を追う

部会長に聞く》

21世紀は「人 間 科学」の時代

独創的な技術開発への道を開く

特別論文圖

谷 川 寛 三 / 竹 村

監訳 嶺

命

―毛沢東死後十年の軌跡と展望…………

174

ーネッ म्ब

学校 吉田茂と藤尾正行…… 国際航空政策の遅れを憂う 円高による産業の空洞化: 日韓を考える「この一冊」・ だけ イア優位の時代に が教育の場? 木 啓吾…34 32 30

> 永田町 月間の動き……… 健康百話… マスコミ批判 …… レポ 永田次 李家正文 高橋正則 238 200 248

(政治·経済·社会·国際)

が計 日本4 の報告 潮教育流の② 凋落の一途をたどる日教組!… 人づくりの拠点「生涯学習センター」 -薩摩隼人の血が生む質実剛健の気風 静岡県掛川市

予 毈 科学技術政策と重要研究の推進∵∵ 算編成 み 一民 はどのように反 されるか

歌寶 俳壇 三千年前の脳外科………樋 ずいひつ 舞のこころ: 核廃絶への祈りと危惧……入 イギリス**人**とフランス人の不思議な間柄:中 国見純生/西田和子……雑號選 宮津 昭彦 生佑……維訴選 滕島茶六… 大串 · · · · 维詠選 石本隆一:: 松崎鉄之介… : 146 : 145 143

平 将棋指南 …

太

■ 政務調査会日誌 ····· 244 242

■囲碁指南…………

240

■読書ガイド………

234

編集後記…… 読者の声…………

表紙写真・ オーストリア政府観光局提供